

# 横浜の農畜産物と 地産地消の発信について

環境創造局



(青葉区寺家町)



(都筑区東方町)



(緑区新治町)



(神奈川区羽沢町)



(港北区新羽町)



(鶴見区北寺尾)



(瀬谷区瀬谷町)



(旭区下川井町)



(泉区上飯田町)



(戸塚区品濃町)



(磯子区氷取沢町)



(金沢区柴町)

# 横浜のイメージ

港



みなとみらい

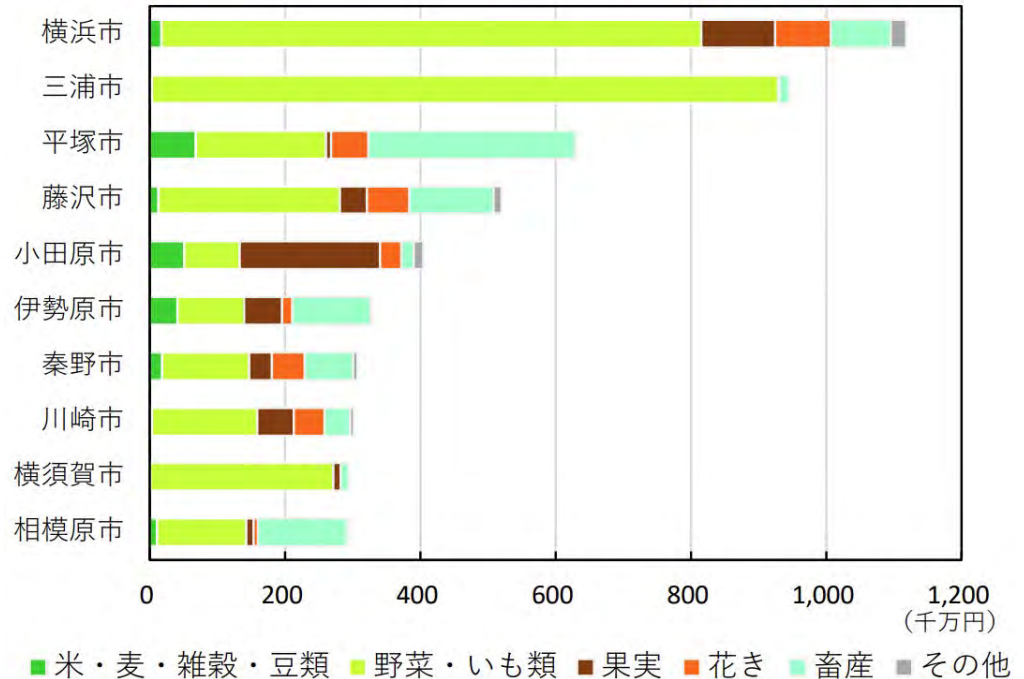
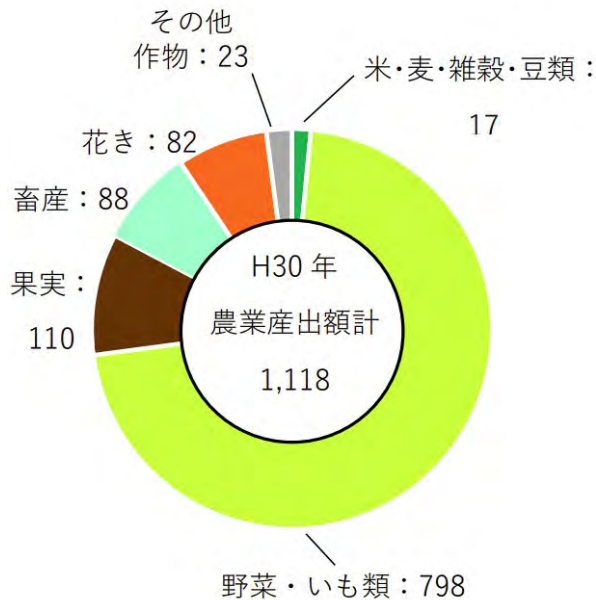


中華街



# 横浜の農業について

**農家戸数** 3,451戸 (県内1位、全国145位/1,741市町村)  
**農業就業人口** 4,482人 (県内1位、全国73位)  
**農地面積** 2,815<sup>ヘクタール</sup> (市域の約7%)  
**農業産出額** 約112億円 (県内1位、全国226位)



農家戸数、農業就業人口：農林業センサス2015(農林水産省)、農地面積：固定資産概要調書(令和3年)  
 農業産出額：平成30年産市町村別農業産出額(推計) (農林水産省)

# 横浜の農業の特徴

- ・ 市民が暮らす身近な場所に農地があり、生産者と消費者の距離が近い
- ・ 直売用の少量多品目生産をしている生産者が多い

## 【メリット】

- ① 旬の新鮮な農畜産物を購入できる
- ② 生産者の顔が見えるため安心感がある
- ③ 消費者の声を直接聞くことにより、生産者の意欲が高まる
- ④ 生産者と消費者のコミュニケーションが広がることで、地域を元気にする

## 【留意すること】

- ① 住宅地に近接しているため、農作業をする際には、農地の周辺住民への配慮が不可欠
- ② 小規模かつ分散している農地で生産している農家が多いため、生産量が限られ、過大な需要には応えにくい



# 横浜の農業施策の推進

- 横浜都市農業推進プラン2019-2023
- 横浜みどりアップ計画[2019-2023]
- 横浜市の都市農業における地産地消の推進等に関する条例(平成26年度制定)



# 横浜都市農業推進プラン

## 【基本理念】 活力ある都市農業を未来へ



農業の多様な役割を生かしながら、「持続できる都市農業を推進する」、「市民が身近に農を感じる場をつくる」の2つの計画の柱を設定

1 持続できる都市農業を推進する

2 市民が身近に農を感じる場をつくる（横浜みどりアップ計画）

# 農業施策の体系

計画の柱

施策

事業

計画の柱1

持続できる  
都市農業を  
推進する

1 農業経営の安定化・  
効率化に向けた農業振興

2 横浜の農業を支える多  
様な担い手に対する支援

3 農業生産の基盤となる  
農地の利用促進

①市内産農畜産物の生産振興

②都市農業の拠点づくり支援

③生産基盤の整備と支援

④農業の担い手の育成・支援

⑤農業経営の安定対策

⑥農地の貸し借りの促進

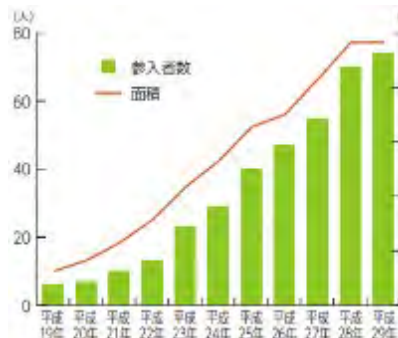
⑦まとまりのある農地等の保全



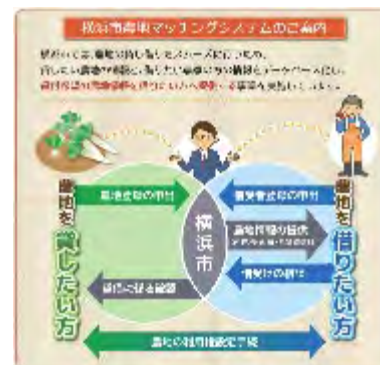
高付加価値化



農地の基盤整備



新規参入者の増加



農地のマッチング

# 農業施策の体系

計画の柱

施策

事業

計画の柱2

市民が身近  
に農を感じる  
場をつくる

1 農に親しむ取組の推進

2 地産地消の推進

①良好な農景観の保全

②農とふれあう場づくり

③身近に感じる地産地消の推進

④市民や企業と連携した  
地産地消の展開



農景観の保全



収穫体験農園



市民農園



横浜の農畜産物  
を活用した商品

※計画の柱2は、横浜みどりアップ計画[2019-2023]に定められている農業施策

# 地産地消の取組



青空市・マルシェ・キッチンカーの出店支援



直売所の設置支援



はまふうどコンシェルジュ講座



はまふうどコンシェルジュ  
によるマルシェの開催



食と農のフォーラム

# 横浜の農畜産物を活用した商品



# 横浜の農家の主要な販路：直売所

横浜の多くの生産者は、個人やグループの直売所、JAの直売所などで販売しています



# 多様な市民農園

市民ニーズに応じた多様な市民農園を整備しています。



区画内を自由に耕作できる認定市民菜園



農園付公園



農家のアドバイスのもとで楽しむ  
ことができる栽培収穫体験ファーム



子どもたちを対象とした環境学習農園

# 農業・農地の多様な役割

農畜産物の供給



防災



農業に対する理解の醸成



## 横浜の農業・農地

農作業体験・学習・交流の場を提供



国土・環境の保全



良好な景観の形成





# 各区の主な農畜産物



区名	主な農畜産物
鶴見区	ナス、タマネギ、花苗 など
神奈川区	キャベツ、レタス、ダイコン など
西区	—
中区	—
南区	花苗など
港南区	ナス、ネギ、花苗 など
保土ヶ谷区	キャベツ、ネギ、ジャガイモ など
旭区	ダイコン、トウモロコシ、キャベツなど
磯子区	トマト、ナス、キュウリなど

# 各区の主な農畜産物



区名	主な農畜産物
金沢区	ミカン、トマトなど
港北区	カリフラワー、ナシ、トマトなど
緑区	ナシ、ブドウ、コマツナなど
青葉区	ナシ、米、コマツナなど
都筑区	コマツナ、ホウレンソウ、卵など
戸塚区	トマト、ナシ、肉牛・乳牛など
栄区	トマト、キュウリ、ナスなど
泉区	ナシ、豚、キャベツなど
瀬谷区	トウモロコシ、ウド、サツマイモなど

# 旬のカレンダー

横浜市内 くだもの直売時期

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ウメ												
ブルーベリー												
ナシ												
ブドウ												
イチジク												
カキ												
ミカン												
キウイフルーツ												
イチゴ												

## 旬の野菜の美味しい時期

# 旬のカレンダー

横浜でつくられている、主な野菜の品種とおいしい時期(旬)を、カレンダーで紹介するよ。この他に、いろいろな果物、畜産物、花なども作られているよ。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

いんげん												
うど												
えだまめ												
かぶ												
カリフラワー												
キャベツ												
きゅうり												
ごぼう												
こまつな												
さつまいも												
さといも												
じゃがいも												
しゅんぎく												
だいこん												
たまねぎ												
つけな類												
とうもろこし												
トマト												
なす												
ニンジン												
ねぎ												
はくさい												
ブロッコリー												
ほうれんそう												
みずな												
レタス												

## 花暦

～はなごよみ～

春～夏

秋～冬

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

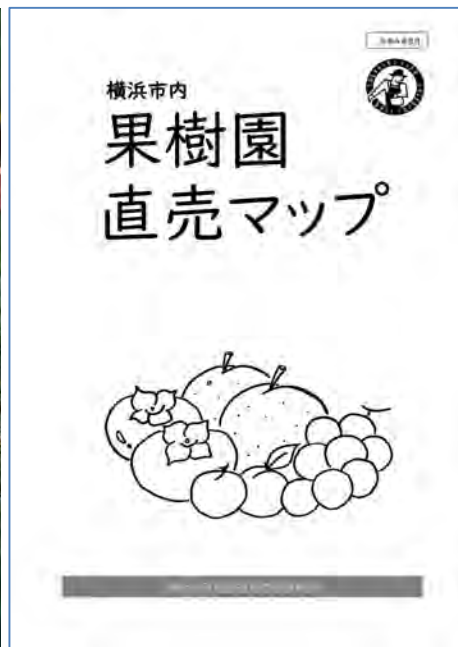
10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月

ベチュニア										
マリーゴールド										
ナデシコ										
ニチニチソウ										
サルビア										
ポーチュラカ										
インパチェンス										
アジサイ										
ガザニア										
コリウス										
バーベナ										

パンジー・ビオラ										
シクラメン										
プリムラ										
ハボタン										
アリッサム										
キンギョソウ										
サイネリア										
ストック										
クリスマスローズ										
ナデシコ										

# 食や農に関する広報

区役所が作成している直売所マップ(10区)、環境創造局が作成している果樹園や花の直売マップの配布のほか、収穫体験農園の情報などについて、横浜市のホームページ等で市民の皆様幅広くお知らせしています。



### 横浜みどりアップ事業-収穫体験農園のご案内

最終更新日 2022年7月28日 [印刷する](#)

横浜で、ぜひ農体験してみませんか？

横浜みどりアップ計画の事業で整備した収穫体験農園をご紹介します。農園の運営は横浜市役所ではなく、個別の農家・農園になります。体験したい農園の詳細について、各農園のホームページ又は横浜市による紹介ページへのリンクをクリックしてご確認ください。

#### 季節の体験

[ブルーベリー](#)の収穫が一部の園で始まりました。

#### 収穫体験にあたっての注意事項

収穫体験農園の情報は予告なく変更になる場合があります。予約制のため、事前に、体験を希望している農園へ電話等でお問合せをしてください。【このページの一番下にある問合せ先ではなく、一覧表から各農園の紹介ページへ移動して、各農園の連絡先をご確認ください。】

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にご協力いただき、発熱や風邪などの症状がある方や体調の優れない方、あるいは、同居のご家族に風邪症状がみられる場合や体調が優れない方がいらっしゃる場合は、来園をお控えください。来園時は、マスク着用をはじめとする咳・くしゃみエチケットの実施、手指の消毒、その他農園管理者の指示にご協力ください。

#### 横浜みどりアップ事業の収穫体験農園一覧表



シャインマスカット収穫時の確認 (都筑区南山田町)

- 農地パトロールを実施しています
- 農家のみなさまの意見を掲載記事に提出
- 農業者年金について
- 農地造成について
- 委員紹介
- 横浜市からのお知らせ
- コラム～農を考える～
- 表紙写真インタビュー

### 農地パトロールを実施しています

農業委員会では、今年も管内の農地を巡回する農地パトロール（利用状況調査）を実施しています。

調査の結果、適正に管理されていない農地があった場合には、所有者の方々に通知し、今後の意向を確認したうえで、貸付相談等を行います。

農地を適正に管理することは、害虫や有害鳥獣の発生予防になるとともに、放火や不法投棄などの防止にもつながります。引き続き、農地の適正な管理をお願いします。

2021.11 第44号 1

# 食や農に関する広報

10  
2021  
Vol.58

## はまふうどナビ



横浜農場

よこはまの農と暮らしを結ぶ情報誌

2021年最新情報!

### 横浜の直売とマルシェイベントの

## 現在地

「はまふうどナビ」で直売・マルシェ特集をするのは4年ぶりです。この間、IT技術の進化や環境問題への意識の向上、地産地消への認知度拡大などによって、直売やマルシェのあり方も少しずつ変化しています。

#### 横浜中心部にも広がる横浜野菜の直売

横浜市では市域の約7%が農地で、郊外部ほど農地が広がり農家戸数が多い傾向にあります。各区で発行している直売情報や地産地消サポート店のMAPが充実し、市民が地産地消に親しみやすくなっています。

農地や常設の直売所はない西区や中区でも、横浜市役所での横浜野菜直売所のほか、みなとみらい農家朝市や商業施設でのイベントなど、中心部でも横浜の農畜産物を手に入れやすい環境が整い始めています。開催日には地元の住民たちが列をなすことも。「朝採れの野菜のおいしさに目覚めたお客さんがリピートしてくれて常連になる」と、販売する側も手応えを感じています。



みなとみらい農家朝市出店者会長

11月は地産地消月間!



コインロッカー型直売所

#### ITやSNSの活用で直売をより身近に

農家自身による直売のスタイルも多様化しています。農家の軒先での直売からコインロッカー型、店舗の軒先を借りてのマルシェ型や、軽トラに農作物を載せての引き売りなど、それぞれに工夫を凝らして固定ファンがついています。

最近増えているのは、農家自身がSNSを使って収穫した野菜のことやその調理法、レシピなどを発信するケース。スマホのLINEにその日のオススメが届いたり、おいしそうなお野菜や果物の画像が流れてくるInstagram、農家の人柄が垣間見られるFacebookなど、SNSごとに情報の届き方に特性があります。

#### マルシェイベントのあり方も柔軟に変化

新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年以降のマルシェイベントは、開催できない時期が長期間続いたこと、いまだに大きな影響があります。一方で、おうち時間が増え、身近な農や旬の野菜のおいしさに気づいた人たちが、地元の食材を求める機運が高まっています。規模を小さく、地域の人向けにマルシェイベントを再開したり、新たに始める事例も出てきています。

集合住宅でも、住民団体がマルシェイベントを企画し、住民と近隣のコミュニティ作りで役立てる事例もちらほら聞かれます。今後、高齢化によって移動や買い物の困難な人が出ることが予想される地域で、こうした出張型のマルシェへのニーズは高まっていくでしょう。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため変更されたり中止になる場合があります。事前HPやSNSを検索し開催状況調べてからお出かけください。

地下鉄・バスでかけよう  
横浜交通局広報誌

## ぐるっと GURUTTO



2022年夏号

## 農にふれてリフレッシュ

ヨコハマウェルビーイング

「ぐるっと」公式Instagramチェック!  
写真で癒された瞬間や写真などをお楽しみください。  
ぜひアカウント@gurutto\_yokohama\_officialをフォローしてください!

# 収穫体験農園

農家の収穫体験農園の開設を支援して、  
市民の皆様に楽しんでいただく場を増やしています。



イチゴ



ブルーベリー



ブドウ



サツマイモ



トマト



タケノコ



# マスメディアにおける横浜の農（地産地消）関係の プロモーションについて



## ■ シティプロモーションにおける農(地産地消)の発信

政策局では、総合的な都市の魅力をプロモーションし、“横浜という街”への興味関心をかき立て、「訪れたい」「住みたい」「ビジネスしたい」と思っていただけのように発信を行っています。

その魅力を構成する要素として、農(地産地消)という切り口についても、環境創造局から様々な情報を得て、メディアへ向けた情報発信を行い、市内外に横浜の農について知っていただく取組を行っています。

- ※主な取組
- 1 フリーパブリシティの取組
  - 2 18区井とメディアとの連携コーディネートについて

# 1 フリーパブリシティの取組

横浜の魅力を発信し、横浜ブランドイメージの向上及び横浜への来訪意欲の喚起のため、PR会社を通じて、横浜の魅力発信につながる情報をテレビやウェブメディアへ取材・掲載できるように企画提案を行い、露出の獲得を目指します。

※必ずしも取り上げられるわけではなく、相手方とニーズがマッチした場合のみメディア露出の獲得ができます。



## メディアツアー(フリーパブリシティの企画の1つ)

ウェブメディアを招致して、横浜を巡るメディアツアーを実施  
横浜市のブランドエッセンスを体感してもらう内容のプレスツアーを企画して  
記事掲載につなげます。

### 令和3年度

ターゲットを30歳前後の女性と設定し、「横浜で非日常、横浜日帰り旅」をテーマにWEBメディア5媒体を招致。  
象の鼻テラス、開光庵、赤レンガcaféクルーズ等を紹介。  
その中の一つとして、市内及び県内の食材を使用した地産地消の料理を紹介。



## 令和3年度実績

	【種別】 番組名/媒体名	放映日・ 掲載日	内容
ウェブ (ツアー参加媒体)	るるぶ&more (他2媒体転載)	2021/12/14	「横浜で非日常、横浜日帰り旅」をテーマにプレスツアーを実施。 象の鼻テラス、開光庵、赤レンガcaféクルーズ、MARINE & WALK YOKOHAMA等を紹介。 その中の1つとして、横浜の大さん橋にあるイタリア料理店「サブゼロ」を巡り、市内及び県内の食材を使用した地産地消の料理を紹介。
	CREA WEB (他5媒体転載)	2021/12/11	
	TABIZINE (他4媒体転載)	2021/12/11	
	Hanako.Tokyo (他8媒体転載)	2021/12/25	
	ウレぴあ総研 (他7媒体転載)	2022/2/26	
テレビ	テレビ朝日系列 料理番組	2021/11/14	都筑区の農家でサトイモをフォーカス。 旬の産地ごはんというタイトルで放送。
	テレビ朝日系列 料理番組	2022/3/5	『家族で守る“愛情”江戸前海苔』として 金沢区にある忠彦丸の海苔養殖の収穫から加工まで紹介。
	テレビ朝日系列 料理番組	2022/3/27	戸塚区の農家でいちごをフォーカス 旬の産地ごはんというタイトルで放送。

# メディアツアー(フリーパブリシティの企画の1つ)

令和4年度(年2回実施:1回目7月 2回目:11月予定)

ターゲットを30歳前後の女性と設定し、その層を讀者にもつWEBメディア7媒体を招致。  
『横浜“プチ・リトリート”(癒し)』をテーマに、1日を巡るツアーを実施



店産、店消がコンセプトのカフェ  
「ICONIC STAGE cafe」でビルの中で栽培した  
ハーブや野菜を使用した料理を紹介



TSUBAKI食堂で横浜産お野菜をふんだんに使ったお料理を堪能  
ヘルシーな食事で体もリトリート



## 令和4年度実績（9月1日現在）

	【種別】 番組名/媒体名	放映日・ 掲載日	内容
ウェブ (ツアー参加媒体)	TABIZINE (他5媒体転載)	2022/7/31	<p>「横浜でプチ・リトリート」をテーマにプレスツアーを開催。</p> <p>横浜イングリッシュガーデン、ランドマークスパ、S/PARK、えの木てい、横浜媽祖廟、SUITAKU等を紹介。その中の1つとして、東白楽にある「店産、店消」がコンセプトのカフェ「ICONIC STAGE cafe」を巡り、ビルの中で水耕栽培したハーブや野菜を使用した料理を紹介。</p> <p>また、横浜市役所内の商業施設「ラクシス フロント」にあるTSUBAKI食堂にて、横浜産の野菜や畜産物を使った、地産・地消にこだわるメニューを紹介。</p>
	るるぶ&more (他3媒体転載)	2022/8/1	
	Hanako.Tokyo (他6媒体転載)	2022/8/11	
	ことりっぶ (他5媒体転載)	2022/8/14	
	マイナビウーマン (他10媒体転載)	2022/8/18	
	CREA WEB (他7媒体転載)	2022/8/27	
	ウレぴあ総研 (他1媒体転載)	2022/8/29	
テレビ	フジテレビ系列 情報番組	2022/5/2	JERA横浜火力発電所の火力発電を活用したイチゴ狩りとして、鶴見にある「横浜ストロベリーパーク」を紹介。

## 2 18区丼とメディアとの連携コーディネートについて

環境創造局農業振興課と市内飲食店がコラボして進めている、各区の食材を使用した18区丼の取組を、メディアへつなぎ、コラム記事をウェブ上で配信するなど発信力を高めました。

実施店舗：TSUBAKI食堂（横浜市庁舎2階）/よこはまグリーンピース

コラム掲載メディア：横浜LOVEWalker（ウェブ）

取組内容：横浜野菜・地産地消をコンセプトとして、横浜市にある18区に対して、1カ月に1区をフォーカスし、月の前半後半に分けて、それぞれの区で採れた食材を「丼」に仕立てて提供する「18区丼」という取組。（令和3年6月～令和4年8月までの全28回連載）

